

## 浦賀水道におけるベラ科魚類 2 種の分布記録

林 公義・田丸秀幸

Masayoshi HAYASHI & Hideyuki TAMARU: Distributional Record of  
Two Labrid Fishes from the Uraga Channel

### はじめに

浦賀水道に面した千葉県館山市坂田の地先で、ベラ科魚類 (Labridae) のクロフチススキベラ *Anampses melanurus* Bleeker とセジロノドグロベラ *Macropharyngodon negrosensis* Herre の 2 種が採集された。日本産魚類大図鑑 (益田ほか編, 1984) の解説 (荒賀, 1984) によれば両種は稀種で、日本沿岸における分布域も沖縄島以南とされている。なかでもセジロノドグロベラは採集例が沖縄県の瀬底島と黒島の 2 回あるにすぎない。クロフチススキベラについては、日本産魚類大図鑑の発行後に沖縄県以北の海域での目視観察例があると聞いているが、著者らの知るかぎりでは採集例として報告されたものはない。浦賀水道における両種の採集記録は、両種の分布域を考察する上での 1 資料となるものなので本誌に報告する。

### 採集経過

著者のひとり田丸により両種は共に 1988 年 12 月 8 日、千葉県館山市坂田沖の水深 20~21 m 付近から採集された。両種が出現する前の水温は 16~17°C と低めであったが、採集した当日は 18°C に上昇していた。

セジロノドグロベラは水深 21 m で発見し、砂場と磯根の境目に設置された定置網固定のための土俵 (直径 2 m 内に約 20 個、高さは約 40 cm) の上や周辺を遊泳していた。近くにある岩場のほうにはあまり移動しなかった。田丸は 1988 年の 1 月 (水温 16°C) にも同所でセジロノドグロベラ 1 個体を観察しており、VTR で記録したのち採集し鴨川シーワールドに移送した。林は VTR 映像資料を確認し、セジロノドグロベラと同定できた。

クロフチススキベラはやはり前種を採集した場所の近くで発見し、水深は 20 m で磯根の岩場を中心に遊泳

していたが、セジロノドグロベラのいた砂場のほうには移動しなかった。両種を採集した当日、同じ場所で観察されたものにはカミナリベラ・ササノハベラ・スズメダイ・シコラダイなどがある。

### 外部形態の特徴と測定値

セジロノドグロベラの成魚は全長 120 mm に達するが、採集された個体 (国立科学博物館魚類資料 NSMT-P 30021) は全長 33.8 mm の幼魚である。荒賀 (1984) によれば、沖縄県で採集されている 2 個体も体長は 46.0, 61.0 mm の幼魚期のものである。日本に分布するノドグロベラ属 (*Macropharyngodon*) には本種の他にノドグロベラ (*M. meleagris*)、ウスバノドグロベラ (*M. moyeri*) の 2 種が知られ、鰭条数や側線鱗数などはよく類似しているが、それぞれの体色斑紋には特徴がある。むしろセジロノドグロベラの幼魚の体色斑紋は一見するとブチススキベラ (*Anampses caeruleopunctatus*) の幼魚と類似しているので、相模湾以南に多く分布するブチススキベラの幼魚の目視観察は注意を要する。体高は高く体長の 32.2% で、よく側扁している。3 棘ある臀鰭棘の第 1 棘は微小で外観ではわかりにくい (図 1-A, 表 1 参照)。

クロフチススキベラはセジロノドグロベラに比べると、沖縄や南西諸島の海域で幼・成魚が採集されているようで、成魚は全長 120 mm に達する。今回採集された標本は体長 46.4 mm の幼魚であるが、体色斑紋の特徴は荒賀 (1984, Pl. 197-L, 体長 100 mm) の記載とよく一致した。日本に分布するススキベラ属 (*Anampses*) は 6 種が知られ、成長や性別によって体色変化が著しいので同定が難しい。体色斑紋が本種とよく類似しているのは同属のホクトベラ (*A. meleagrides*) やブチススキベラ (*A. caeruleopunctatus*) の幼魚や雌であ

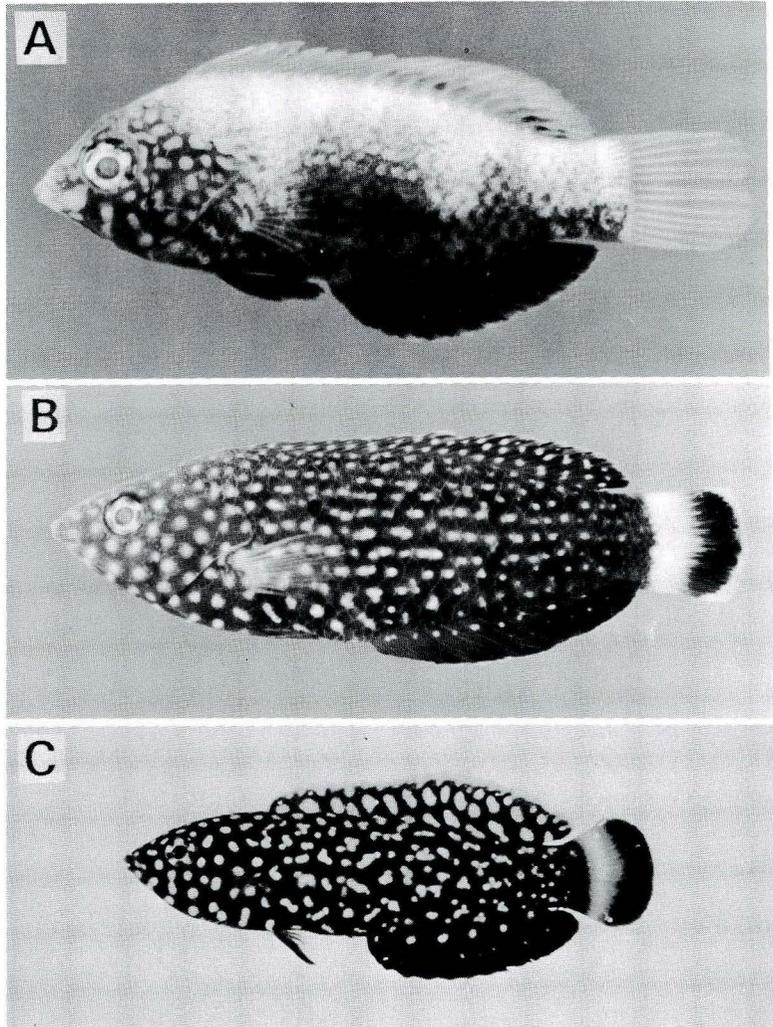


図1 採集されたセジロノドグロベラとクロフチススキベラ  
 セジロノドグロベラ(*Macropharyngodon negrosensis*)  
 A. 千葉県館山市坂田, NSMT-P 30020, 体長 27.0mm  
 クロフチススキベラ (*Anampses melanurus*)  
 B. 千葉県館山市坂田, NSMT-P 30021, 体長46.4mm  
 C. 静岡県伊東市富戸, YCM-P 19976, 体長 35.2mm

る。体側にある白色縦列小斑や頭部の白色小斑の配列はいずれも類似しているが、尾鰭の配色に着目することで区別することができる。RANDALL (1972) は、本種の体色斑紋がインドー太平洋産と紅海産（頭部や体側の白色斑が点列状でなく線状につながる）との間で異なることを指摘し、前種を *A. melanurus melanurus*、後種に *A. melanurus lineatus* の亜種名をあたえて区別している。RANDALL (1972) に従えば、南日本の沿岸域で採集されているクロフチススキベラはインドー太平洋産の亜種に同定される。体長に対する体高比 (27.2~29.7%) はセジロノドグロベラ (32.2%) よりも低い (図1-B, C, 表1参照)。

#### 分布域の検討

荒賀 (1984) で報告されているベラ科の分布域をみると、近年精力的に行われてきた沖縄ー南西諸島海域の調査に基づいて、多くの種類が日本の沿岸に生息することが明らかになった。そのなかでも珊瑚礁とその周辺域に分布の中心があるものが多く、これらの種類についてはその海域が繁殖の中心的な場となっている。一般にベラ科魚類の生活生態を考えると、ある程度まとまりのある繁殖集団があまり広くない範囲の中で移動を行うタイプといえる。ススキベラ属やノドグロベラ属の種類は低緯度の珊瑚礁海域が主な生活水域であり、また繁殖もその海域が中心となっている。こ

表1 クロフチススキベラ (*A. melanurus*) と  
セジロノドグロベラ (*M. negrosensis*) の外部形質における測定値

種 類	<i>A. melanurus</i>		<i>M. negrosensis</i>
	NSMT-P30021	YCM-P19976	NSMT-P30020
標本番号	館山市坂田	伊東市富戸	館山市坂田
採集場所	1988.Dec. 8	1989.	1988.Dec. 8
採集日			
背鰭条数	IX, 12	IX, 12	IX, 11
臀鰭条数	III, 12	III, 12	III, 11
胸鰭条数	i + 12	i + 12	i + 11
尾鰭条数 *	7 + 7	7 + 7	7 + 7
有孔側線鱗数	26	27	28
体 長	46.4mm	35.2mm	27.0mm
体 高	13.8 29.7 **	9.6 27.2	8.7 32.2
頭 長	16.8 36.2	12.0 34.1	5.6 20.7
吻端—背鰭前基部	14.3 30.8	12.1 34.4	8.6 31.9
吻端—胸鰭基部	14.8 31.9	11.1 31.5	9.4 34.8
吻端—腹鰭基部	16.6 35.8	12.5 35.5	8.8 32.6
吻端—臀鰭前基部	25.9 55.8	19.1 54.3	14.0 51.9
吻端—肛門	24.8 53.4	18.0 51.1	13.5 50.0
背鰭基底長	26.8 57.8	21.7 61.6	17.2 63.7
臀鰭基底長	17.7 38.1	14.1 40.1	10.4 38.5
胸鰭長	8.2 17.7	6.5 18.5	5.5 20.4
腹鰭長	6.1 13.1	4.3 12.2	5.8 21.5
尾鰭長	9.5 20.5	6.6 18.8	6.8 25.9
尾柄高	6.5 14.0	4.9 13.9	3.9 14.4
吻 長	4.5 26.8 ***	3.4 28.3	2.8 50.0
眼 径	3.2 19.4	2.7 22.5	2.3 41.1
两眼間隔	4.1 24.4	3.4 28.3	3.3 58.9
上顎長	2.5 14.8	2.1 17.5	1.2 21.4

\*... 尾鰭の分節軟条 (上部+下部) 数.

\*\*... 各形質の体長比. \*\*\*... 各形質の頭長比.

のような観点からは今回採集されたセジロノドグロペラとクロフチススキペラの幼魚は採集された海域周辺での繁殖個体とは考えにくい。相模湾や東京湾口では10~11月にかけて南日本の海域に生息する沿岸魚類が多く採集される例(林・伊藤, 1974; 林, 1979a, b; 工藤ほか, 1988; 林ほか, 1989; 東ほか, 1989)が報告されている。しかしチョウチョウオ科魚類の場合と同様に, 黒潮沿岸流によって運ばれてくるが冬期の耐温限界や選択餌料などの点ではほとんどが死滅回遊で終わる。ペラ科のなかでも本種らはこれと同様な経緯の分布記録種と解釈できる。

沿岸遊泳性魚類の正確な分布域の把握は大変むずかしい。クロフチススキペラについては, 本報以前にも多数のダイバーの方から私信として駿河湾や相模湾での幼魚の観察例を連絡いただいていたが, 今回千葉県館山市坂田(NSMT-P30021)と静岡県伊東市富戸地先(横須賀市自然博物館魚類資料 YCM-P19976)で標本入手ができたのを機会に, 採集記録場所を明確にした。

#### おわりに

本報告を作成するにあたり, 標本の借用を許可くださった国立科学博物館動物研究部の松浦啓一氏, クロフチススキペラ(YCM-P19976)の写真と標本を寄贈いただいた益田海洋プロダクションの益田一氏に深く感謝する。また海中観察の機会をくださった日本海洋資源開発(SEA CROP)の成田均氏にお礼申しあげる。

#### 引用文献

荒賀忠一, 1984. ペラ科・カヌムリペラ亜科解説. 日

本産魚類大図鑑, 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, pp. 198-204. 東海大学出版会, 東京.

林 公義, 1979a. 横須賀市佐島, 天神島・笠島の魚類(IV)一魚類相の検討と生活様式について一. 横須賀市博物館報, (25): 39-50.

林 公義, 1979b. 横須賀市, 猿島沿岸の魚類. 猿島の自然・生物的自然に関する研究. 観光資源調査報告, (7): 109-134, pl. 27-31. (財)観光資源財団.

林 公義・伊藤 孝, 1974. 館山湾南部(沖ノ島, 鷹の島, 西岬, 洲崎)にみられる魚類について. 横須賀市博雑報, (19): 18-30.

林 公義・古賀一郎・古賀 敬, 1989. 横浜市沿岸域の魚類相. 横浜の川と海の生物第5報. 公害資料, (140): 213-273. 横浜市公害対策局.

東 禎三・林 公義・長谷川孝一・足立行彦・萩原清司, 1989. 伊豆半島須崎, 田の浦湾周辺海域の魚類. 日大農獣医学術研報, (46): 175-185.

工藤孝浩・鴨川宗洋・伊藤俊弘, 1986. 横浜市沿岸域の魚類相. 横浜の川と海の生物 第4報. 公害資料, (126): 181-225. 横浜市公害対策局.

益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, 1984. 日本産魚類大図鑑. xx+448pp., pls. 370. 東海大学出版会, 東京.

RANDALL, J. E., 1972. A revision of the labrid fish genus *Anampses*. *Micronesica*, 8 (1-2): 151-190, pls. 3.

(林 公義: 横須賀市自然博物館・田丸秀行: 千葉県鴨川市太海浜156)